

松本市の フューチャーデザイン

新庁舎・中心市街地の
あり方検討の事例より



令和2年1月25日
長野県松本市
政策部政策課
主任 山口 正裕

本日お伝えしたいこと

- 1 松本市の概要
- 2 松本市におけるフューチャーデザイン(FD)
- 3 実施体制 「地域政策研究会」
- 4 実践① 市役所新庁舎建設
- 5 実践② 次世代交通政策
- 6 今後に向けて

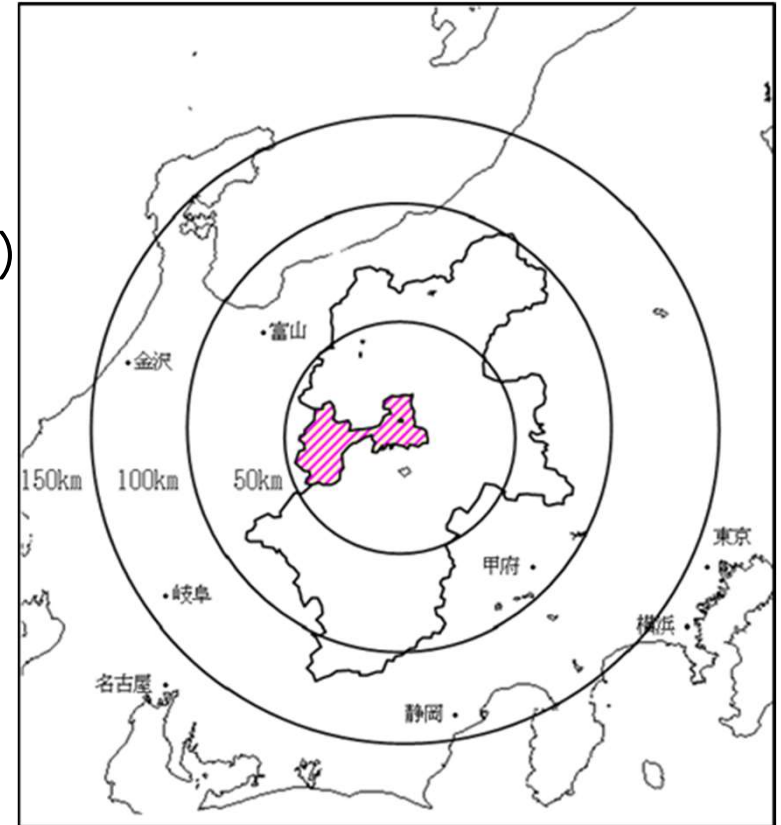
1 松本市の概要 – 基本データ –

地勢

- 面積 約978km²
- 地理 松本盆地、槍ヶ岳・穂高連峰
- 交通 JR（新宿2.5時間、名古屋2時間）
松本空港（福岡、札幌、神戸）

人口

- 人口 24万人（県内第2位）
- 世帯数 10.5万世帯
- 高齢化率 27.6%（県内19市中最低）



1 松本市の概要 – 歴史・文化 –

国宝 松本城

- 安土桃山時代（文禄年間1590年代）に、石川氏により天守築造
- 現存12天守のうち、五層六階の天守としては日本最古



3 ガク都

「岳都」



上高地 etc...

「楽都」



セイジ・オザワ
松本フェスティバル

「学都」



国宝 旧開智学校校舎 4

2 松本市におけるフューチャーデザイン

取組みの経緯

- ・ 信州大学経法学部の西村教授から、市に共同研究の提案
- ・ 市の課題：少子高齢化・人口減少

⇒ **持続可能性を見据えた**政策形成

実施テーマ

現在まで、2つのテーマによる実践を経験

- ・ 市役所新庁舎建設
- ・ 中心市街地活性化に向けた交通政策（次世代交通政策）

実施母体

2016年5月

市職員と大学教員等で構成する「地域政策研究会」を設立

3 実施体制 「地域政策研究会」

目的

- フューチャーデザインの手法の研究
- 市民との合意形成の在り方・手法の研究
- 将来を見据えた政策形成ができる人材の育成

メンバー

- 信州大学 : 経法学部の教授・准教授 5人
(財政学、実験経済学、社会政策、経済地理学、医療経済学)
- NPO法人SCOP(コンサルタント会社)
- 松本市役所 : 各部局から推薦を受けた若手職員 10人
(政策部、地域づくり部、環境部、健康福祉部、農林部、
商工観光部、建設部、教育部)

3 実施体制 「地域政策研究会」

実施体制と役割

理論及び手法構築
ワークショップ原案作成
効果測定、結果分析

信州大学

**地域政策
研究会**

松本市

SCOP

市政課題の洗い出し、テーマ検討
ワークショップのファシリテーター

ファシリテーター養成
ワークショップ構築・運営

3 実施体制 「地域政策研究会」

	< F D の学習 >	< F D の実践 >
2016	<ul style="list-style-type: none">・ 講演会の開催 2月 大阪大 原先生 7月 矢巾町 吉岡氏・ 矢巾町視察	<ul style="list-style-type: none">・ 市の課題抽出
2017	<ul style="list-style-type: none">・ 講演会の開催 5月 高知工科大 西條先生	<ul style="list-style-type: none">・ 実践テーマの検討・ 模擬ワークショップ・ 市役所新庁舎建設WS
2018		<ul style="list-style-type: none">・ 実践テーマの検討・ 模擬ワークショップ・ 中心市街地WS
2019	<ul style="list-style-type: none">・ 庁内への拡大(F D の構造化)	

4 実践① 市役所新庁舎建設

松本市役所庁舎

〔現状〕

本庁舎：昭和34年竣工(築60年)

5階建て 25.3m

総務・政策・財政・建設部局 等

東庁舎：昭和44年竣工(築50年)

4階建て 19.6m

市民窓口、福祉部局、市議会 等

〔問題点〕

ハード面：老朽化、狭隘化 等

ソフト面：利便性、セキュリティ 等



本庁舎



東庁舎

4 実践① 市役所新庁舎建設

市役所新庁舎建設計画

〔スケジュール〕

2018年度

基本構想 策定

FDによる
市民意見
導入

2019年度

基本計画 策定

2020～2026年度

設計、建設工事等

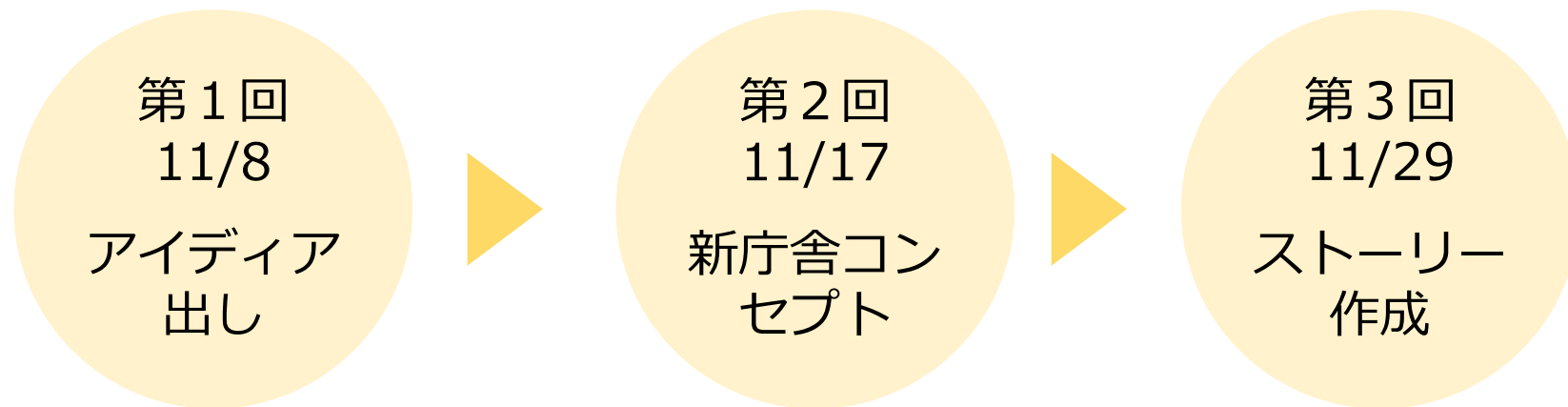
2026年度

供用開始（目標）

4 実践① 市役所新庁舎建設

松本市役所新庁舎を考えるワークショップ

〔市職員WS〕 庁内募集 延べ195名参加



〔市民WS〕 一般公募 延べ71名参加



4 実践① 市役所新庁舎建設

WSの様子



4 実践① 市役所新庁舎建設

結果分析

- ・現代世代、仮想将来世代とも、庁舎に関するコンセプトの言葉は似ているが、思考の経緯（考え方）が異なる。

世代	コンセプト	思考の経緯
現代世代	「コミュニケーションの場が必要」	現時点で少ないと感じているから
仮想将来世代	「人と人とのつながりを生む場が必要」	ITの発達等により市役所に来る人が少なくなる。 市役所の新たな機能として必要



討議内容に質的差異

信州大学（西村教授）による 当日実施アンケート分析

仮想将来世代を経験したグループは

社会的 > 個人的 長期的 > 短期的 な視点が生まれている傾向 ¹³

4 実践① 市役所新庁舎建設

各世代の意見(市職員WS)

現代世代	新庁舎のメインコンセプト	新庁舎のサブコンセプト
	わざわざ来て元気になる	・ 市民が行きたくなる庁舎
	みんなが城を好きになる	・ どんな人でも使いやすい庁舎
	フレキシブル	・ いつでも、いつまでも使いやすい庁舎
	職員満足度の向上 = 市民サービスの向上	・ 職員にとって快適な場

仮想将来世代	新庁舎のメインコンセプト	新庁舎のサブコンセプト
	落ち着く穏やかな気持ち	・ 城と共存共栄するフレキシブルな空間
	自由自在に変わる場	・ 生き方、働き方の多様化に対応
	灯を囲む いきがいのある場	・ コミュニティをつくる
	市民が人のぬくもりを感じられる	・ 専門機関をつなぐハブ化

4 実践① 市役所新庁舎建設

各世代の意見(市民WS)

	新庁舎のメインコンセプト	新庁舎のサブコンセプト
現代世代	中核都市として広域連携の核となる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本庁舎と各支所の機能が重要 ・ 高齢者、障害者にも優しい庁舎
	自然と歴史に調和した人が活きる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開かれ使いやすい庁舎 ・ 松本城のイメージを壊さない
	イノベーションを起こす庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時代の変化に対応 ・ コミュニケーションの場

	新庁舎のメインコンセプト	新庁舎のサブコンセプト
仮想将来世代	シンプルと柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人とのつながりを生む ・ 誰にとっても優しい
	人と人との繋がる集うことができる場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居心地が良い場 ・ フレキシブルに使える庁舎
	世界遺産になる場所に建てるに値するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ お城との調和 ・ 資源的に自立 (エネルギー、コスト)

4 実践① 市役所新庁舎建設

FDによるワークショップに加え、有識者等で構成する市民懇話会の意見を踏まえ、新庁舎建設の基本的な考え方を策定

新庁舎建設における基本的な考え方	
1	分かりやすさ・使いやすさを実感できる庁舎 「シンプルで使いやすい空間をデザイン」
2	松本城と共に時を刻む庁舎 「ゆとりとやすらぎの空間づくり」
3	コミュニケーションが芽生える庁舎 「まちとひとを接続するハブ機能」 「新たな共創」
4	コンパクト+ネットワーク型の庁舎 「行政機能の適切な配置、行政機関を生かし支える」
5	新たな時代のオフィスのモデルとなる庁舎 「常に一歩先を行くオフィス」
6	リスクに備える庁舎 「災害対応力を発揮」
7	世代を超えて受け継がれていく庁舎 「フレキシブル（柔軟に応用がきく）な設計」

4 実践① 市役所新庁舎建設

他都市との比較

松本市

(千葉県)市川市

基本的な考え方	
1	分かりやすさ・使いやすさを実感できる
2	松本城と共に時を刻む
3	コミュニケーションが芽生える
4	コンパクト+ネットワーク型
5	新たな時代のオフィスのモデルとなる
6	リスクに備える
7	世代を超えて受け継がれていく

基本方針(2013)	
1	利用しやすい
2	人にやさしい
3	親しまれる
4	機能的・効率的
5	安全・安心な
6	環境にやさしい

4 実践① 市役所新庁舎建設

他都市との比較

松本市

(千葉県)浦安市

基本的な考え方	
1	分かりやすさ・使いやすさを実感できる
2	松本城と共に時を刻む
3	コミュニケーションが芽生える
4	コンパクト+ネットワーク型
5	新たな時代のオフィスのモデルとなる
6	リスクに備える
7	世代を超えて受け継がれていく

基本方針(2006)	
1	使いやすく便利
2	地球環境に配慮
3	災害に備えた防災拠点となる
4	分かりやすい案内や相談窓口
5	経費を節減し、経済的
6	環境にやさしい
7	ユニバーサルデザイン
8	市民協働の拠点
9	効率的な行政経営の場
10	浦安公園を中心とした地区形成

5 実践② 次世代交通政策

次世代交通政策

次世代交通政策実行計画

自動車優先の社会を転換し、歩いて暮らせる集約型都市の実現を目的とした、都市交通とまちづくりを連携させた計画

〔次世代交通政策実行計画の見直しに使用〕

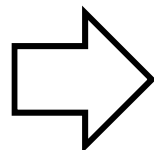
2020年度の間年次見直しの際に、市民意見として使用

FDによる
市民意見
導入

〔市民意識の転換〕

次世代交通政策の推進にあたっての重要課題である「市民意識の転換」を図る。

車優先社会
車に過度に依存した生活



歩行者、自転車、公共交通が優先される社会
車をかしく使う生活スタイル

5 実践② 次世代交通政策

中心市街地の交通を考えるワークショップ

〔市民WS〕 無作為抽出した市民 延べ110名参加

第1回 2/3

- ・まち歩きを通して
中心市街地の現状を知る
- ・現代世代の視点で
中心市街地を考える



第2回 3/10

- ・将来世代の視点で
中心市街地の交通を考える
- ・両世代の視点で
中心市街地を考える

5 実践② 次世代交通政策

結果分析

全参加者が現代世代、将来世代の両方の世代の視点によるワークを経験

世代	意見の特徴	代表的な意見
現代世代	今ある課題とその解決策についての意見	<ul style="list-style-type: none">・渋滞をなくす取組み・公共交通を充実させる必要がある
仮想将来世代	大局的な視点でまちづくりを考える意見	<ul style="list-style-type: none">・「松本らしさ」を構成する資源(城下町風情、豊富な湧水、クラフトや音楽)を残す取組みが必要・人と人とのコミュニケーションの場として、中心市街地を活用・個人生活の利便性追求の抑制の提案

6 今後に向けて

FDの構造化

FDの有用性の確認

- ・ FD形式のWSの実施による、「長期的」「社会的」な視点の獲得
- ・ WSを通じて市民の意見を政策に反映する手法の一つ



FDの構造化

- ・ テーマの選定方法 ⇒どんなテーマが適しているのか
- ・ 将来世代に成りきる方法 ⇒未来の市民の意見をしっかり代弁
- ・ ファシリテーション ⇒参加者の意見を引き出す手法

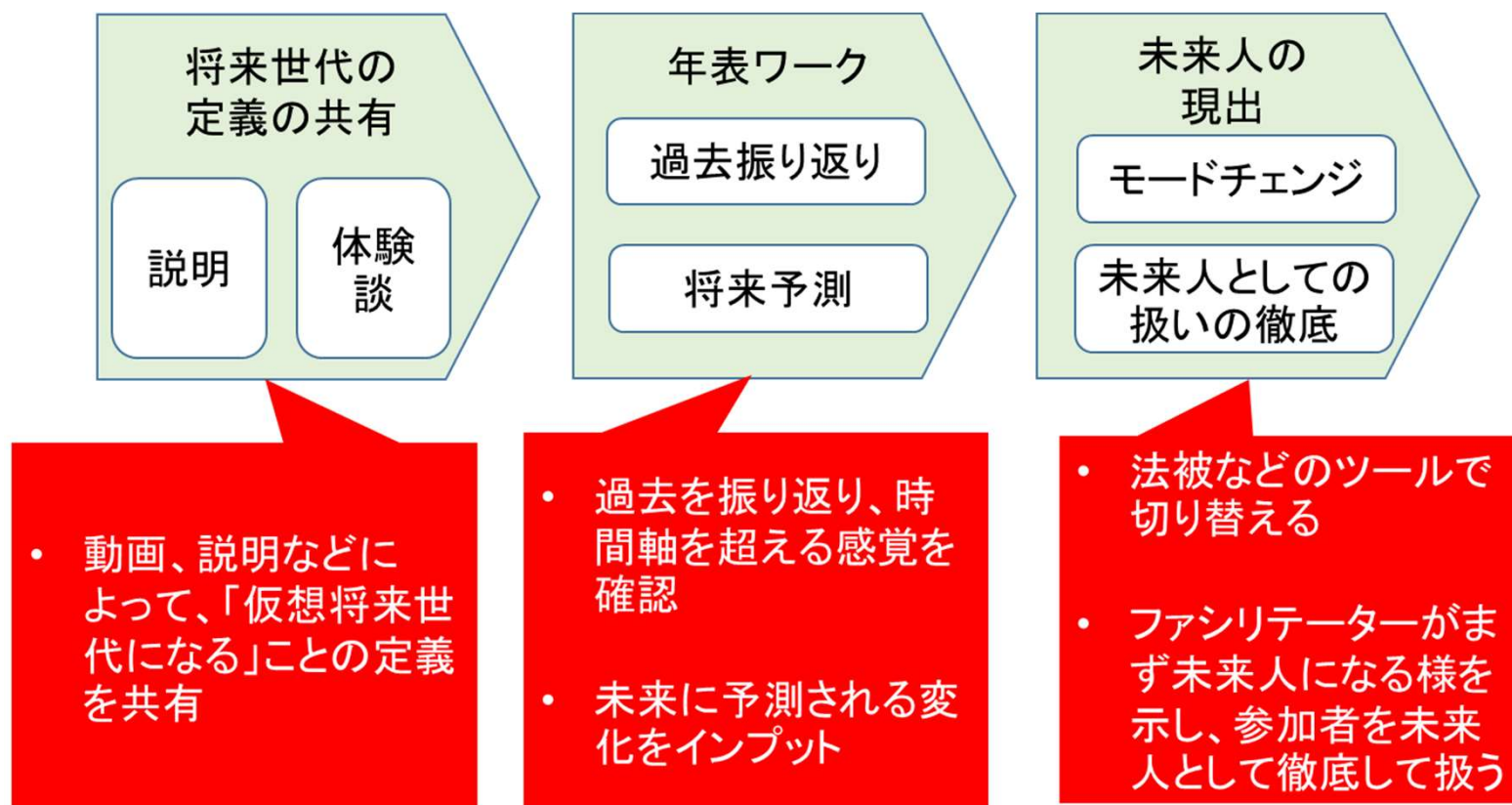


**FDの視点による
持続可能な社会（未来）を見据えた政策形成**

6 今後に向けて

FDの構造化

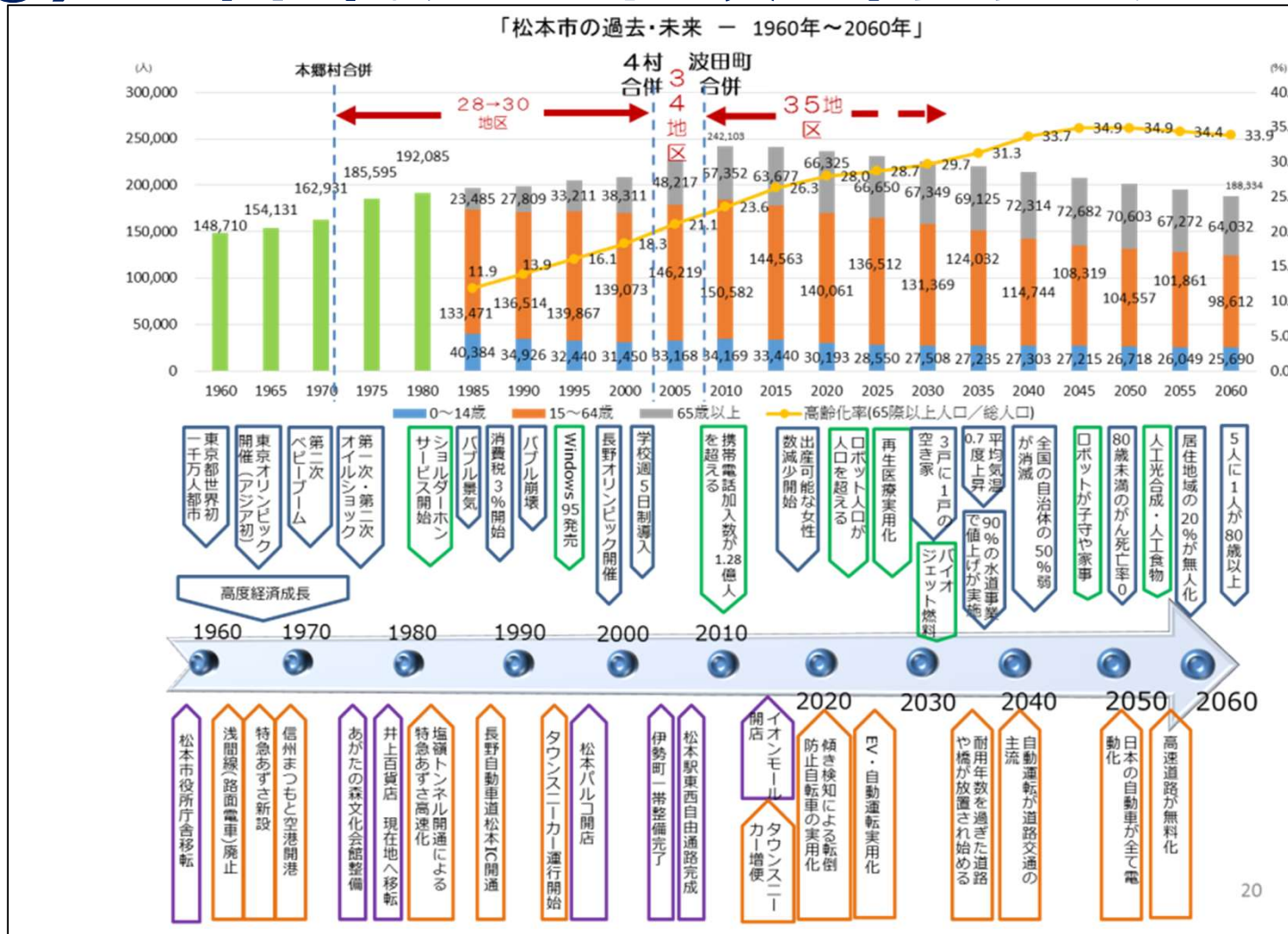
例①) 将来世代現出方法の整理



6 今後に向けて

FDの構造化

例②) 将来世代現出に向けた年表ワーク



6 今後に向けて

今後の課題・更なる研究に向けて

市役所 庁内（職員）へのFDの拡大

行政担当者

「現代世代」はもとより、

「将来世代」をも利害関係者と捉える視点を持つ

双方の視点から「今、取り組むべき政策」を検討



「持続可能な社会の実現」